



# 宗教と家族

— 教えの継承と多様性 —

第5回現代と親鸞  
公開シンポジウム

## 若佐 顥臣

WAKASA Gishin

(實成寺住職・全国日蓮宗青年会社会教化担当委員長)



### 【登壇者からのメッセージ】

「家族」の在り方は時代が進むにつれ少しずつ変化しているが、頑なに変化を受け入れない岩盤層によって制度と現状の乖離がどんどんと進んでいる。

江戸時代から続く「檀家制度」によって護られてきた日本の仏教寺院において「家族」という単位は切っても切れないものであろう。伝統的な家族観の例外を認めてしまえば檀家制度の崩壊に拍車をかけ、自らの首を絞めると考える向きも少なくないが、それがより良い選択だとは思えない。

題目や念仏の様式を伝えることも大切なことである。それに加え仏教思想の基にある「多様性」「平等主義」なども世に伝え示すことが、救いを求める人々にとっても、仏教寺院においても重要なのではないだろうか。今回、全国日蓮宗青年会が東京レインボープライドに参加する過程において様々な課題に直面し、少しの希望を見た。いつか解決する問題と片づけるのではなく、今、苦しんでいる人々にどれだけ寄り添えるのか考えていきたい。

(わかさ・ぎしん)